

■ 事業のセールスポイント

買いもの・通院といった「目的地での用事」と移動手段を連結させたスマートな移動サービスを提供することにより、移動手段の代替を狙いとする従来型のMaaSサービスでは得られない、利用者の満足度向上と地域の商業施設や医療機関等の利用促進につなげることで地域経済の活性化を目指す

■ 対象区域の概要

- 名称：けいはんな学研都市
(精華・西木津地区)
- 面積：約506ha
- 人口：約21,300人



■ 都市の課題

- 地域公共交通網の公共交通網の弱体化による移動・生活が困難な住民の増加
- 持続可能な地域交通プラットフォームの構築

■ 解決方法

- デマンドバスの運行による交通不便の解消
- 目的地施設敷地内へのデマンドバス停設置による利用促進
- 地域情報配信による移動きっかけの創出

■ 運営体制

区分	企業・自治体	主な役割
実施主体	西日本電信電話株式会社	全体企画、スケジュール作成 目的予約・移動システム構築 運行路・運行方法の策定、モビリティ調達
自治体	京都府 精華町	行政内の調整、道路利用許可調整 住民説明・広報支援
交通事業者	関西学研都市交通株式会社	運行路・運行方法の検討協力、 ドライバー調達支援
商業施設・医療機関	精華町西木津地区 商業施設・医療機関	施設前バス停の設置・情報配信に関する協力

■ KPI (目標)

- デマンドバス満足度：80%
- 月当たりの外出頻度の増加数：+2.0回/月
- 目的地連携機能に関する利用意向：70%+

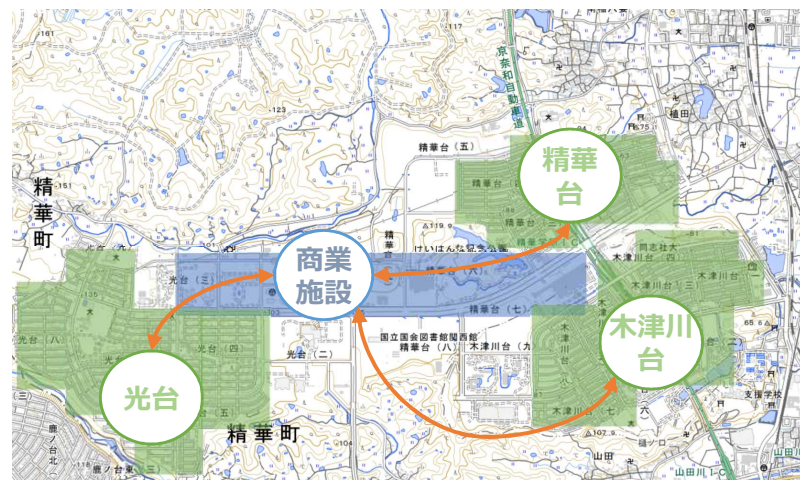
■ **本実行計画の概要**

けいはんな学研都市（精華西木津地区）において、日常生活で利用する商業施設、医療機関等と住宅地をつなぐ乗合型のデマンドバスを運行。利用者に対して地域のイベントや店舗情報を配信することで外出機会を創出し、地域の商業施設や医療機関等の利用促進につなげることで地域経済の活性化を目指す

デマンドバス運行計画

実施期間	61日間（令和3年9月1日～10月31日）
運行方法・エリア	8:30～18:00 精華町光台、精華台、木津川市木津川台
対象地域人口	約20,000人
乗降可能な施設数	25カ所（全乗降地点は、107カ所）
運賃	1回100円（未就学児は無料）
使用車両	10人乗り 普通自動車 2台 （コロナ対策として最大定員5名で運行）
予約取得方法	①Web予約②電話予約
他の交通機関との連携	奈良交通路線バスへの乗継ぎ地点の設定

運行地域



デマンドバス予約サイト



ホーム画面

目的地施設検索画面

車両・バス停



デマンドバス車両



デマンドバス停①
（電柱）



デマンドバス停②
（施設敷地内）

ラストワンマイルの移動課題を解決するために、電話・WEBで予約可能な乗合型のデマンドバスを運行。予約ポータルサイト上では施設利用を促す機能・UIを提供することで外出機会の創出を図る。あわせて施設利用傾向の分析結果を事業者側と共有することで集客貢献・施策活用への有用性を検証。

■ 実証実験の内容

① デマンドバスの運行

自宅近辺の電柱バス停・公園・ゴミステーションで乗り降りできるデマンドバスを運行(電話/WEBでの予約が可能)



デマンドバス車両



バス停看板(電柱)

② 予約ポータルサイトの提供

デマンドバス予約ができるポータルサイトを開発。サイト上では地域の店舗・医院の利用促進を図るためにイベント検索等の目的地連携機能を提供。

<予約ポータルサイトにおける提供機能一覧>

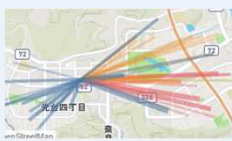
デマンドバス停/施設検索機能	画面に表示されたマップ上でデマンドバスの乗降可能なバス停の検索を行う機能。マップ上では協業施設の概要情報やイベント/クーポン情報の閲覧が可能。
デマンドバス予約機能	希望する日時を入力しデマンドバスの空き状況を確認し、配車予約を行う機能。
地域イベント/クーポン検索機能	実証期間中に開催している協業施設でのイベント情報やクーポン情報の検索を行う機能。
施設予約画面遷移機能	マップ上の協業先施設情報から施設の予約画面に遷移する機能(WEB予約に対応している施設のみ)。
お知らせ機能	実証に関するお知らせを通知する機能。



予約ポータルサイト イベント検索画面

③ 各種データの取得および分析

デマンドバスの運行管理ログ、ポータルサイトの利用ログを一元管理。実証エリア全体の移動傾向や年代ごとの利用傾向を分析。



データ分析イメージ

■ 実証実験で得られた成果・知見

- 利用者の**満足度は非常に高く**、ラストワンマイルの移動課題に対してデマンドバスが有効であることを確認
- 自宅近辺～目的地施設前まで直接移動できることで、**外出頻度増加に貢献**、徒歩移動に比べて手荷物を運ぶ負担が軽減され、**購買量増にも寄与**することを確認
- デマンドバスの予約サイト上での**情報配信をきっかけとした行動変容を一定数確認**

移動手段の提供と併せて店舗・施設情報やイベント情報を配信することで購買量の増加や施設訪問のきっかけづくりに貢献できる

今後は移動の目的地と連携した取り組みをさらに進めることで移動課題の解決だけでなく、地域経済活性化にもつながることが期待できる

今後の取り組み

これまでのスマートけいはんなプロジェクトの取り組みを通じて、デマンド交通の有効性が確認したが、今後は地域交通との連携や目的地の連携を進めていく必要がある。
特に採算性の課題は大きく、運賃収入以外の収入源創出に取り組む必要がある。

■ 実証実験で得られた課題

【実証実験の目的と照らした課題整理】

① デマンドバスの運行による交通不便の解消

実証実験を通じて、特に普段から移動に困っている高齢者の課題解決に資することが明らかになった。一方で、コロナ禍の影響もあり利用方法について説明会を実施するなど理解促進策を十分に実施できなかった。

⇒ 高齢者の利用ハードルを下げる工夫が必要

② 目的地施設敷地内へのデマンドバス停設置による利用促進

実証実験のアンケート結果から、施設の目の前で乗り降りできることが利用者にとって大きなメリットとなることが明らかになった。一方で、移動できる施設が少ないといった声もあり、地域事業者のさらなる巻き込みが必要。

⇒ 地域事業者の巻き込みを進め、目的地を増やす

③ 地域情報配信による移動きっかけの創出

実証実験のアンケート結果から、目的地の情報が閲覧できることでデマンドバス利用者の行動変容が期待できることが明らかになった。一方で、小規模事業者にとっては、情報配信効果は限定的であった。

⇒ 大規模事業者から小規模事業者まで効果が得られる機能（広告、決済、予約等）の検討

■ 今後の取組：スケジュール

【具体的な取り組み内容】

利用者を増やす

- ・自家用車利用者にも魅力的な機能の検討/開発
- ・デマンドバスの予約画面改善、電話自動受付サービスの検討/開発

運賃収入以外の収入源を作る

- ・店舗/施設予約、キャッシュレス決済等の新機能の検討/開発
- ・移動サービスの導入とセットで解決ができる地域事業者の課題探索

運行コストを下げる

- ・安全性を担保した形で運行が可能なドライバー人材（地域住民、有志等）の確保、自動運転技術等の動向把握

【スケジュール】

- ・R4：モデル地区での試験運用の実施
- ・R5：モデル地区でのサービス提供開始
- ・R6以降：位置情報や乗車データを用いた広告配信
精度向上等の機能拡張